

事業名称	地域との協働による未指定等文化財の調査および保存環境の構築事業			
実行委員会	三島地域資料調査会			
中核館	三島市郷土資料館			
	住所	〒411-0036 静岡県三島市一番町19番3号 楽寿園内 三島市郷土資料館		
	TEL	055-971-8228	FAX	055-971-6045
	ホームページ	https://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/		
構成団体	三島市立徳倉小学校、三島市立東小学校			
事業開始時点の課題分析	全国的に未指定を含む文化財（以下、「地域資料」と表記）の散逸・消滅という危機感が共有されている。三島市内においても、個人宅・公民館、小中学校・幼稚園・保育園等に地域資料の存在することを認識しているものの、資料リスト等が作成されてこなかったため、所蔵の実態が不明瞭な状態のまま今日に至っている。地域資料のほとんどが把握できていない現状は、日常的・非日常的な要因による散逸・消滅を食い止められないということであり、速やかな対策が必要となる。			
事業目的	地域と協働で市内に所在する地域資料を把握し、保存・継承していくための環境を構築する。散逸・消滅を食い止めるための措置として、地域資料およびそれを保存・継承することの重要性を広く市民へ周知する。また、資料所在の現状を把握し、現場保存の環境を整え、所蔵者と定期的な接触を図れるよう協力関係を構築する。上記啓発事業のメニュー化や、調査、保存環境の整備・所蔵者との役割分担、所蔵者との定期的な接触という一連のサイクルの設定を進めることで、地域資料の保存・継承の仕組みづくりを目指す。			
事業概要	地域と協働で市内に所在する地域資料を把握し、保存・継承していくための環境を構築することを目的とし、下記の事業を実施する。①講演会・出前講座を開催して、地域資料およびその保存・継承の重要性を広く周知する。②個人宅・公民館や学校・幼稚園・保育園の地域資料を調査し、保存環境を整え、所蔵者との間で将来に向けた協力関係を構築する。			
実施項目 ・ 実施体系	<p>1 地域資料の保存・継承に向けた周知活動</p> <p>(1) 講演会の開催…①告知用チラシの作成／②講演会の開催</p> <p>(2) 出前授業の開催…①文化財レプリカの作製／②授業パッケージの作成（大人対象）／③自治会連合会等での出前授業の開催</p> <p>2 三島市及び周辺地域における地域資料の把握</p> <p>(1) 民間所蔵資料の文化財の把握・保存…①既往調査先情報の収集／②有識者会議での検討／③調査先の選定／④調査・記録、リスト作成／⑤保管環境の整備と協力関係の構築</p> <p>(2) 学校資料の把握・保存・魅力の発信…①市内の小学校の現状リストの作成／②有識者会議での検討／③調査先の選定／④調査・記録、リスト作成／⑤保管環境の整備と協力関係の構築／⑥学校資料紹介パンフレットの作成／⑦ミニ展示会の開催</p>			
実施後の成果・効果等	<p>1 講演会を1回、出前授業を2回実施し、地域資料の重要性と現状を伝達し、当会の活動への協力を呼びかけた。</p> <p>2 個人宅4件・小学校2校で調査を実施し、粗目録を作成、現状を記録して、所蔵者との間で協力関係を構築するまでの流れを設定した。小学校においては調査した学校資料を活用して校内展示会を開催し、パンフレットを作成、児童・教職員へ無償頒布することで、その魅力を伝達、保存・継承への意識醸成を図る機会とした。</p>			

【事業実績】

※作成要領に従い事業実績は2頁で作成ください。

1 地域資料の保存・継承に向けた周知活動

地域資料の保存・継承の重要性を周知するため、市民を主な参加対象とする講演会を1回開催した。また、地域資料の魅力を伝えるとともに、地域資料所蔵者の情報提供について協力を求めるため、自治会連合会等で出前講座を2回開催した。

なお当初、上記に加え、地域資料の保存方法を周知する啓発用刊行物の作成・頒布を計画していた。市民各自に地域資料への認識を深めてもらい、自宅での保存・継承に進んで取り組んでもらえるようなチラシの作成を目指すものであったが、民間所在資料の事例の蓄積が十分でなく、現時点では当地の実情に則した効果的な紙面を作ることが難しいと判断したため、作成を中止することとした。

(1) 講演会「文化財危機一髪！～うっかり消えちゃう歴史資料～」 1回実施 参加者数 45名

開催日時 令和3年12月12日(日) 13:20～16:10

会場 三島市民文化会館ゆうゆうホール

内容 第1部 身のまわりに眠るたからもの

講師:西村 慎太郎氏

(国文学研究資料館・総合研究大学院大学教授、
NPO 法人歴史資料継承機構代表理事)

第2部 学校に眠るたからもの

講師:和崎 光太郎氏

(東京福祉大学准教授、学校資料研究会代表)

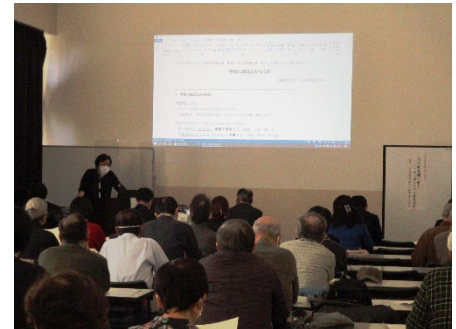


第1部 開催の様子

講演会終了後に回収したアンケートでは、内容に関する選択式の質問項目で、「非常に良い」「良い」とした回答が69%に達し、「びっくりするほど役に立った」「文化財を残すためには皆で知識を持つことが大事だと思った」等、民間および学校所在資料の散逸・消滅の



質疑応答の様子



第2部 開催の様子

現状と継承の重要性を伝えるという、本講演会の目的をある程度達成することができた。また当会の活動内容について、参加者に理解を深めていただく良い機会ともなった。

(2) 出前授業「あなたのおうちの文化財」 2回実施 参加者数計 29名

①西部地区自治会連合会

開催日時 令和4年2月25日(金) 19:00～19:20

開催場所 西地区コミュニティ防災センター

参加者 13名(地区内自治会長)

②自主サークル「はじめての古文書」(古文書初学者の自主勉強会)

開催日時 令和4年3月13日(日)13:30～14:00

開催場所 三島市郷土資料館

参加者 16名



西地区自治会連合会での開催の様子

小学校1校・自治会連合会2地区で開催を予定していたが、感染症の拡大により小学校および自治会連合会1地区での開催が不可能となった。そのため、自治会連合会で1回、自主サークル「はじめての古文書」内で1回実施する形へ変更した。

当日は、出土資料(レプリカ)や近世～近代の古文書、民具等を持参し、地域資料の魅力を伝えるとともに、地域資料が郷土の歴史像構築に欠かせないこと、どういっかけてで消滅・散逸してしまうのか等を説明した。終了後に参加者へ感想を尋ねたところ、地域資料の重要性と現状については深い理解を得られたものの、資料所在の有無に関わる情報については期待していた成果が得られなかった。開催協力を得られた地区は先祖代々の居住者が比較的少なく、サークル参加者の場合は戦後、平成に入ってから転入者が多いことなどが原因として考えられる。



「はじめての古文書」での開催の様子

2. 三島市及び周辺地域における地域資料の把握

(1) 民間・学校所在資料の把握・調査

調査前および調査期間中に有識者会議を開催した(計2回)。地域資料の調査に実績のある有識者や地域の実情に詳しい有識者、小学校長らを出席者とし、調査の進め方や、将来の保存に向けた所蔵者との間の役割分担の内容等について検討した。

① 民間所在資料 調査対象:個人宅4件

『静岡県史』編纂時の所蔵者情報等を収集し、調査先を選定、市内所在の個人宅4件を調査し、うち3件で調査を終えた(調査点数総計 1,191点)。粗目録を作成し、現状記録のための写真撮影を行った。県史編纂時に確認された資料が一部所在不明となっている状況を把握でき、また一方で新たな資料の発見もあった。調査先へは防虫剤や中性紙箱等の保存用器財を提供するとともに、年1回、文書で状態を確認させてもらう等の協力関係を構築した。



個人宅で見つかった地域資料

② 学校所在資料 調査対象:小学校2校

市内公立小中学校・幼稚園・保育園に対し、資料所蔵の有無についてアンケートを実施した。東小学校と徳倉小学校の2校で文献資料・民俗資料・石造物・美術資料等を調査し、粗目録を作成し、現状記録のための写真撮影を行った。



小学校で見つかった地域資料

(2) 小学校における学校資料展示会の開催

展示会名 「学校にあるたからもの一東小と徳倉小一」

会場 三島市立東小学校

会期 令和4年2/2(火)～2/18(金)(計12日間)

調査を実施した小学校で、校内に所在した資料を紹介する展示会を開催し、パンフレットを配布した。“学校の歴史”、“学校と地域とのつながり”、“学校行事と学びの様子”という3章仕立てで展示内容を構成し、在校生および教職員、保護者に対し、地域資料の一要素である学校資料の魅力について伝達した。



小学校で開催した学校資料の展示会